

# 說明資料

# 肱川洪水予測システムから明らかになったこと

- 1 ダムの容量を早めに使い切る
- 2 異常洪水時防災操作開始の放流量と水位を見落とした
- 3 操作規則に違反する急激な放流量の増加を知らせている

肱川洪水予測システムとは

四国地方整備局が作成、精度の高い雨量予測から流入量・放流量を予想

- 1 大規模洪水に対応できない操作規則で放流操作をすれば、ダムは満水になり、その後の流入量を規制できない。

## 異常洪水時防災操作の申請 あきらか

その後に、大洪水が起こる可能性が高いことは気象庁が知らせている。生命財産に大きな被害が起こる可能性があるのに、何もしていない。

急激に放流量が増えているのは異常洪水時防災操作を開始したから、

洪水調節規定 400トンから開度

\*

水位 169.4m

いつ169.4mになるのかを肱川洪水予測システムは知らせている。

4時半 1時間前に連絡

5時20分

5時30分

5時50分 6時50分から見えていたらこのようなことにはならない。

大きな画面で表示され、多くの職員が見る  
気象状況が急激に変わったからではない。

### 3 「急激な放流量の増加はしない。」操作規則 操作細則で定めた重要な放流の原則

肱川洪水予測システムでは、4時から6時20分までまったく  
放置状態

対策を講じていないだけでなく、講じようともしていない。

4 なぜ、肱川洪水予測システムのプログラムに、1時間前通知と急激な放流量の増加禁止が入っていないのか

点滅 アナウンス(パワーポイントで工夫)

急激な放流量の増加にならないために修正放流方式

四国地方整備局の怠慢 意識の欠如

## 5 九州地方整備局の柔軟な放流操作の公表

「 」 「 」

国土交通省の本省も評価している。

### 【これから言えること】

- ①やはり異常洪水時防災操作は危険な放流であり、回避することが必要。→被告国の誤り
- ②被告国は、柔軟な運用ができないかのごとく主張しているが操作規則を柔軟に運用することができること。
- ③大規模洪水に対応しにくいことを承知していればなおさら。